

#医学書院の新刊

本欄で紹介した書籍は、読者アンケート(p.1477)にご回答いただいた方に、抽選でプレゼントいたします。



神経システムがわかれば 脳卒中リハ戦略が決まる 第2版

手塚純一、増田 司=著

定価 5,280 円/B5 判・292 頁/医学書院/2024

「神経システム+脳画像=リハ戦略」ではなかった！？ リハビリテーション(リハ)で見逃してはいけないのは目の前の患者さんの臨床症状だ。神経システムと脳画像所見から臨床症状を読み解くこと、それが効果的なリハ戦略につながる。本書によってアプローチの選択肢は確実に増える。それは臨床現場で絶対的な武器となる。脳画像の見かたや運動療法がみてわかる Web 動画付き。



いのちに驚く対話

死に直面する人と、私たちは何を語り合えるのか

岡田 圭=著

定価 2,420 円/A5 判・240 頁/医学書院/2024

ニューヨーク訪問看護サービス(Visiting Nurse Service of New York)でホスピス緩和ケアに従事し、スピリチュアルケア・プログラム・マネージャーも務めた日本人による指南書。多文化都市ニューヨークで、多くの「死に向き合う人」とどのように出会い、いかに語り合ってきたのか。目の前に広がる患者さんと著者との物語と、言語や文化を超えた「対話」の現場感覚が味わえる1冊。



イルカと否定神学

対話ごときでなぜ回復が起こるのか

斎藤 環=著

定価 2,200 円/A5 判・288 頁/医学書院/2024

「ゼロ」からはじめるオープンダイアログ！ なぜ対話するだけで、これほどの変化が生ずるのだろうか。なぜこんな「ふつうのこと」で、回復が起きてしまうのだろうか。ラカン、ペイトソン、バフチン、レイコフ、中井久夫……著者の全キャリアを支えてきた思想を総動員して、この哲学的疑問に真正面から応えた渾身の一冊。こうして対話という魔法はゆっくりとその全貌を現しはじめた。この魔法のすばらしさは、謎が解けても効くことである。



医師による医師のための ChatGPT 入門 2

臨床現場ががらりと変わる生成 AI 実践術

大塚篤司＝著

定価 3,850 円／A5 判・200 頁／医学書院／2024

最新・最良の生成 AI をフル活用して、日常臨床の質を向上させよう！ 好評を博した『医師による医師のための ChatGPT 入門』の第 2 弾。前作以降の生成 AI の加速度的な進歩を踏まえたうえで、今作では ChatGPT はもとより、Gemini、Claude を中心に日常業務での最新の活用方法を解説する。また、Poe や NoLang などの次世代 AI の数々も紹介。前作同様、お一つか先生から大学院生・花咲アイさんへのレクチャー形式で展開。生成 AI の現在をやさしく楽しく理解できる。



庭に埋めたものは掘り起こさなければならない

斎藤美衣＝著

定価 2,200 円／A5 判・216 頁／医学書院／2024

壮大な勇気をもって「自分の傷」を見ようとした人の探求の書。自閉スペクトラム症により世界に馴染めない感覚をもつ著者。急性骨髄性白血病に罹患するも、病名が告知されなかったことで世界から締め出された感覚に。周囲の期待に応えて残る人生を終える予定だったが、白血病は寛解し、「生き残ってしまった」なかで始まる摂食障害と、繰り返し見る庭の夢。しかし、「もうそのやり方では通用しないよ」と告げに来るものが……。壮大な勇気をもって自分の「傷」を見ようとした人の探求の書。トラウマと回復についての示唆を与えてくれる。



心臓疾患の CT と MRI 第 2 版

佐久間肇、陣崎雅弘＝編

北川覚也、石田正樹＝編集協力

定価 15,400 円／B5 判・496 頁／医学書院／2024

心臓疾患の画像診断の決定版となるテキスト。画像解剖から、CT・MRI の撮影法、各疾患への適応とプロトコル、診断までを網羅した心臓の画像診断の決定版となるテキストの改訂版。初版からのモダリティの進化を踏まえて、掲載画像と記載内容を全面的に刷新した。心臓疾患の臨床に携わるすべての循環器科医、放射線科医、診療放射線技師にとって必読の 1 冊。

本欄で紹介した書籍は、読者アンケート(p.1477)にご回答いただいた方に、抽選でプレゼントいたします。

P



肝胆膵画像診断の鉄則

山下康行=著

定価 7,480 円/B5 判・352 頁/医学書院/2024

肝胆膵脾の画像診断においてこれだけは押さえておきたい“鉄則”が1冊に！肝胆膵脾の画像診断のポイントを“鉄則”形式でズバッと示した。部位・画像所見別の37のシナリオに沿って、主要疾患の症例を提示。各疾患の画像所見の解説に留まらず、所見をみた際にどのようにして鑑別診断を進めるかといった診断のプロセスについても言及する。またモダリティの選択など、画像診断を進めるうえでの留意点についても適宜取り上げる。読影の腕試しができるWeb付録を収載。



Evidence Basedで考える認知症リハビリテーション2 BPSDの評価と介入戦略 [Web 動画付]

田平隆行、田中寛之=編

定価 4,400 円/B5 判・280 頁/医学書院/2024

認知症新時代に求められるエビデンスベースのBPSDリハビリテーション・ケア。好評を得た『Evidence Basedで考える認知症リハビリテーション』の第2弾。前作同様、「臨床と研究をつなぐ」「エビデンスベースド」をコンセプトに、認知症者の行動・心理症状である「BPSD」を深く掘り下げる。症状ごとの出現要因や適切な解釈、最新の知見をもとにした妥当な介入戦略の数々を紹介。各項目収載のレクチャー動画も理解の助けとなる。認知症リハビリテーション・ケア分野の医療従事者必携の1冊。



『病院』2024年10月号 (Vol.83 No.10)

特集 遠隔支援の新時代 未来のビジョンとその実現に向けて

定価 3,300 円/A4 変判・80 頁/医学書院/2024

本特集では、先端のテレヘルス技術やオンライン診療などの遠隔支援技術の可能性、そして実践を通じて、医療スタッフの業務範囲を拡大し、専門的なスキルだけでなく、柔軟に多様な業務を実践できる能力を育む可能性を考える。遠隔支援技術の進展とともに、地域内で人材価値の循環を行い、限りある専門職をいかに有効に活用していくのか。遠隔支援技術の導入による業務の効率化や日常業務の軽減をいかに図るのか。医療のフロントラインでのマルチタスクをこなす人材の育成と、持続可能な医療提供体制に向けた新しい可能性を模索する。



#医学書院の新刊

本欄で紹介した書籍は、読者アンケート (p.1477) に
ご回答いただいた方に、抽選でプレゼントいたします。



『臨床泌尿器科』2024年10月号 (Vol.78 No.11)
**特集 そうだったのか腎移植
泌尿器科ジェネラリストを目指そう!**

篠田和伸=企画
定価 3,190 円/B5 判・104 頁/医学書院/2024

泌尿器科は開腹手術から腹腔鏡、内視鏡、血管手術という多様な術式があり、全身管理ができ、それでいて内科学的な知識も習得でき、ジェネラリストを目指す奥深い分野だ。腎移植医療には、ジェネラリストを目指す医師にとって重要なエッセンスが数多く散りばめられている。ロボット腹腔鏡全盛時代において、それでも泌尿器科にとっては依然として必須の技術である泌尿器科開放手術に必要なあらゆる手技を学べる大変貴重な機会を与えてくれる。本特集では、腎移植の基礎から実践、症例まで、経験豊富なスペシャリストが解説している。



『medicina』2024年10月号 (増大号)
**特集 続・Quality Indicatorの実装とその改善
日々の診療に役立つ診療評価指標**

小坂鎮太郎=編
定価 4,950 円/B5 判・256 頁/医学書院/2024

2022年10月号『これからもスタンダード! Quality Indicator の診療への実装—生活習慣病を中心に』の続編。今回は、かぜや肺炎といった呼吸器疾患、狭心症などの循環器疾患、アレルギー、めまい、がんなど、日常診療でよく遭遇する疾患の QI を取り上げた。また、かかりつけ医や患者中心性、患者協働、shared decision making (SDM) といった医療のエッセンスの QI も取り上げた。日々の診療の振り返りや改善のツールとして、ぜひ QI を活用いただきたい。

医学書院ウェブサイト「ジェネラリスト NAVI」(https://gene-navi.igaku-shoin.co.jp/article/medicina_web_6111)にて、本特集のチェックテストを公開中!

